幸田浩子 ソプラノリサイタル

ピアノ：河原忠之

1部

この道……山田耕筰
唄……山田耕筰
からたちの花……山田耕筰
ばらの花に心をよせて……山田耕筰
たたえよ しらべよ 歌いつれよ……山田耕筰
かぜとかざぐるま……木下牧子
風を見たひと……木下牧子
春なのに……菅野祥子
小さな空……武満　徹
ワルツ……武満　徹
翼……武満　徹

2部

オンブラ・マイ・フ……ヘンデル
涙の流れるままに……ヘンデル
うつろな心（もはや心には感じない）……パイジェッロ
カーロ・ミオ・ベン（いとしい人よ）……ジョルダーニ
春の歌……グノー
『ロメオとジュリエット』より"私は夢に生きたい"……グノー
『椿姫』より第三幕への前奏曲（ピアノソロ）……ヴェルディ
『椿姫』より"ああ、そは彼の人か～花から花へ"…ヴェルディ

春

2012 四季のコンサート

2012年4月14日（土）18:45開演
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

プロフィール

幸田浩子（ソプラノ）

東京藝術大学を首席で卒業。同大学院、及び文化庁オペラ研修所修了後、ボローニャ、並びにウィーンに留学。数々の国際コンクールで上位入賞し、研修後直ちにヨーロッパの主要歌劇場へ次々とデビュー。カターニア・ベッリーニ大劇場、ローマ歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場等数々の大舞台で活躍し、オペラの母国で豊かな経験を積む。2000年名門ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約し、その間『後宮よりの逃走』、『ファルスタッフ』等に出演。専属を離れてからも、『魔笛』夜の女王等で客演。国内では新国立劇場、二期会等の公演で、『ホフマン物語』オランピア、『ナクソス島のアリアドネ』ツェルビネッタ等主役級を演じる他、N響等主要オーケストラとの共演や全国各地でのリサイタル、更にはNHK-FM「気ままにクラシック」で笑福亭笑瓶氏とパーソナリティを務める等多彩な活動を展開。最近では世界のトップアーティストが集う香港音楽祭にゲスト出演した他、フランツ・リスト室内管弦楽団の全国ツアーに参加した。CDは＜天使の糧（パン）＞（DENON）をはじめ4作品をリリース。東日本大震災復興支援にも積極的に取り組んでおり、昨年より姉のヴァイオリニスト幸田さと子とともに10年間継続してのチャリティ・コンサートを企画。第2回となる本年は5月13日に神戸新聞松方ホールにて開催予定。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。第20回エクソンモービル音楽賞奨励賞受賞。二期会会員。　http://columbia.jp/koudahiroko/

河原忠之（ピアノ）

国立音楽大学卒業。同大学大学院修了後、渡伊。幅広い音色、繊細な音楽表現には最大級の賛辞が贈られており、ピアニストとして年間100を超えるステージをこなす。一方、近年は指揮者としても活躍。2006年江原啓之「スピリチュアル・ヴォイス・カウントダウン」にて指揮者デビュー。09年国立音楽大学音楽研究所公演プッチーニ『ラ・ロンディネ』にてオペラ指揮者デビュー。確実にこの分野でもキャリアを伸ばしている。10年には自身が主宰するGruppo Kappa Opera第一回旗揚げ公演『ヘンゼルとグレーテル』を行い各方面から絶賛され、昨年は紀尾井ホールにて「リサイタルシリーズ＜歌霊＞」を開催。歌を知り尽くした唯一無二のアプローチは更なる新境地を開いた。現在、国立音楽大学及び大学院准教授。

幸田浩子
ソプラノリサイタル

HIROKO KOUDA
SOPRANO RECITAL

曲目解説　　真嶋 雄大

●山田耕筰(1886～1965)／**この道、唄、からたちの花、ばらの花に心をよせて、たたえよ しらべよ 歌いつれよ**

山田耕筰は日本で初めてのオーケストラを設立したり、ベルリン・フィルやレニングラード・フィルを指揮するなど、日本における西洋音楽黎明期を支えた作曲家であるが、日本語のテキストを用いた親しみやすい数多くの歌曲でも顕著な功績を残した。

「**この道**」は作詞した北原白秋が晩年に旅行した札幌の北一条通りを歌ったもの。「**唄**」は三木露風作詞、1916年の作で、ドイツの雪遊びの歌を原曲とする唱歌「蝶々」の変奏曲。やはり白秋が作詞した「**からたちの花**」は文部省唱歌で、耕筰の苦学時代の辛い思い出を綴った1925年の曲。大木惇夫の詩による「**ばらの花に心をよせて**」は「宇宙の宮」という礼拝堂の建立祝典のために書かれた3楽章からなるカンタータの第2楽章。そして「**たたえよ しらべよ 歌いつれよ**」は三木露風の詩で、「風に寄せてうたえる春のうた」の第4曲。

●木下牧子(1956～)／ **かぜとかざぐるま　　風を見たひと**

木下牧子は初期こそオーケストラ作品が多かったが、近年は合唱曲や歌曲の創作に力を入れ、アカペラから管弦楽付きの大規模な作品まで幅広い活動を展開している作曲家。「**かぜとかざぐるま**」は12曲からなる歌曲集「抒情小曲集(1996～99)」の第7曲で、詩は岸田衿子。「**風を見たひと**」は1995年の歌曲集「六つの浪漫」の第1曲で、クリスティナ・ロゼッティの詩を木島始が和訳したテキストを用いている。

●菅野祥子／春なのに

菅野祥子は昨年の大震災で壊滅的な被害に遭った陸前高田市出身の声楽家で、ウィーン少年合唱団のヴォイス・トレーナーも務めている。「**春なのに**」は震災の10日後に故郷の風景を思い描いて作ったオリジナル曲。

●武満 徹(1930～1996)／**小さな空　　ワルツ　　翼**

武満徹は多彩なジャンルに重要な作品を遺したが、歌曲にも積極的に取り組んだ。1962年に書いた「**小さな空**」はTBSのラジオ・ドラマ「ガン・キング」の主題歌であり、ジェリー藤尾が初演した。地球、空、海がモティーフになっている。1966年の「**ワルツ**」は勅使河原宏監督の映画「他人の顔」の挿入歌。ピアホールの場面で前田美波里によって歌われた。そして1983年の「**翼**」は「パルコ+番衆プロ」公演の「ウィングス」の主題曲として作曲され、後に石川セリによって歌われた。

●ヘンデル(1685～1759)／**オンブラ・マイ・フ　　涙の流れるままに**

「**オンブラ・マイ・フ(なつかしい木陰)**」はオペラ「クセルクセス(セルセ)」第1幕の冒頭で歌われるクセルクセス王の美しいアリアで「ラルゴ」の愛称でも広く知られている。また「**涙の流れるままに**」はタッソによる叙事詩「解放されたエルサレム」によるオペラ「リナルド」の第2幕に登場する有名なアリアで、敵の魔術師に捕えられたアルミレーナが恋人を想う悲嘆の歌。

●パイジェッロ(1740～1816)／**うつろな心(もはや心には感じない)**

パイジェッロは18世紀後半に活躍した作曲家で、100近いオペラを作曲した。この「**うつろな心**」は1789年のオペラ「美しい水車小屋の娘」の中のアリアで、ベートーヴェンが変奏曲の主題としたことでも知られている。

●ジョルダーニ(1733頃～1806)／**カーロ・ミオ・ベン (いとしい人よ)**

イタリア古典歌曲の名作として長く歌い継がれてきた作品ではあるが、独立した歌曲なのか、オペラ・アリアなのかはわかっていない。生涯のほとんどをイギリスで過ごしたが、本作も18世紀にイギリスで出版された。

●グノー(1818～1893)／**春の歌　　『ロメオとジュリエット』より"私は夢に生きたい"**

代表作「ファウスト」でオペラ作曲家としての名声を確立したグノーが、1860年にトゥルタウの詩を用いて書いたのが「**春の歌**」。そしてオペラ「ロメオとジュリエット」の第1幕で歌われるアリア(ワルツ)が「**私は夢に生きたい**」で、ともに洗練された甘美なメロディーに溢れている。

●ヴェルディ(1813～1901)／**『椿姫』より第三幕への前奏曲**(ピアノ・ソロ)　　**"ああ、そは彼の人か～花から花へ"**

「椿姫」はヴェルディが1853年に発表した名作オペラである。原題は「ラ・トラヴィアータ(堕落した女)」。「**第3幕への前奏曲**」は、ほぼ「第1幕への前奏曲」と同様、第3幕冒頭の哀愁に溢れた抒情がトレースされるが、悲哀感は一層増している。「**ああ、そは彼の人か～花から花へ**」は数あるオペラ・アリア中でも屈指の名曲で、第1幕の最後にヴィオレッタによって歌われる。享楽的な人生を歩んでいたヴィオレッタがアルフレードという純粋な青年の求愛に対し、真実の恋愛を願うもうひとりの自分と葛藤しながら千々に乱れる心をドラマティックに歌い上げる。コロラトゥーラ唱法を駆使した華麗で輝かしいアリアである。

まじま ゆうだい(音楽評論家)